



TFMS Forum in London



交通気象コンテンツフェア in 上海



交通気象コンテンツフェア in ソウル



TFMS Forum in Japan



TDMS Seminar



価値創造インフラの活用事例ワークショップ

## 第26期 第2四半期報告書

多くの企業・個人サポーターと共に価値創造を追求しています

# 株主サポーターの皆様へ

革新的なインフラの積極展開とそのインフラを利用したサービスの高度化を皆様と共に、力強く進めます。



代表取締役社長  
草開 千仁  
(くさびらき ちひと)

## ごあいさつ

株主サポーターの皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社は、当期を本格的に空と陸の交通気象をグローバルに展開する第四成長期の助走期と位置づけ、「重点事業（交通気象、モバイル・インターネット）のやり抜き」、「革新的なインフラへの積極投資と、そのインフラを利用したサービスの高度化」に注力しました。

その結果として、当第2四半期では売上高が6,305百万円（前年同期比6.0%増）となりました。利益面においては、サービス体制の強化、7月に実施した福島県小名浜における災害復旧・復興支援活動を行う中で、研究開発の税額控除に伴う法人税等が減少したことにより、営業利益1,320百万円、税金等調整前四半期純利益1,200百万円、四半期純利益776百万円と増益となりました。

## 重点事業に継続して集中、市場の変化をチャンスに

B to B（法人向け）市場では、「交通気象（航海気象、道路気象、鉄道気象、航空気象）」に継続して注力しました。航海気象では、世界的な経済不況の中、日本・アジアのコンテナ船、自動車船に対し、安全性に加え、経済性や地球環境に配慮して運航を最適化するOSR（Optimum Ship Routeing）のサービスが拡大し、航海気象サービスを提供する隻数についても約5,300隻と増加しました。

道路気象、鉄道気象、航空気象では、「WITHレーダー」をはじめとする革新的なインフラを利用した新価値創造サービスが浸透し、マーケットを広げました。

為替の影響、欧州のタンカー顧客向け試験サービスの終了があったもののB to B市場全体の売上高は、前年同期比0.3%増の2,918百万円となりました。

B to S（個人向け）市場では、全世界的に爆発的な広がりを見せるスマートフォンによる市場の大きな変化をチャンスと捉え、本格的な有料サービスの開始とサポーター層を広げる取り組みに注力いたしました。

有料サービスのスマートフォン向け「ウェザーニュース」は、サポーターからの要望が多かったフューチャーフォンのコンテンツやサービスの継続利用が実現され、また無料アプリケーションである「ウェザーニュースタッチ」は600万ダウンロードを超える人気アプリケーションへと成長し、潜在的なサポーターの獲得にも成功しました。

このようなスマートフォンのサービス強化により、モバイ

ル・インターネットの売上は前年同期に比べて5.9%と引き続き成長しました。また、地上波デジタル放送への完全移行に伴う放送局向けシステムインテグレーションもあり、B to S市場全体の売上高は、3,386百万円と前年同期に比べ11.5%の増加となりました。

### 下半期の見通し、第四成長期への助走を加速

B to B市場においては、引き続き交通気象に注力します。航海気象では、船種の中で最も隻数が多いばら積み船に向けたOSRを、既にリリースしているコンテナ船向け、自動車船向けとあわせ、全世界で展開します。ばら積み船向けOSRは海運会社からのニーズも高く、日本・アジア・欧州の海運会社へサービス提供が決定しています。

B to S市場では、スマートフォン向け有料サービスのコンテンツの拡充、減災をはじめとするサポーターが参加するコンテンツの充実を図り、あわせてサービスのグローバル展開

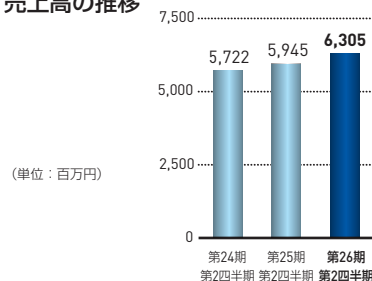
を目指します。

こうした重点事業への継続的な集中、革新的なサービスを実現するインフラ構築、第四成長期に向けたマーケティングの開始などに注力することにより、通期の業績は期初の計画どおり、売上高13,000百万円、営業利益3,100百万円、経常利益3,000百万円、当期純利益1,800百万円を計画しています。なお、配当につきましては、前期に引き続き年間ベースを30円とし、15円の間割配当を実施します。

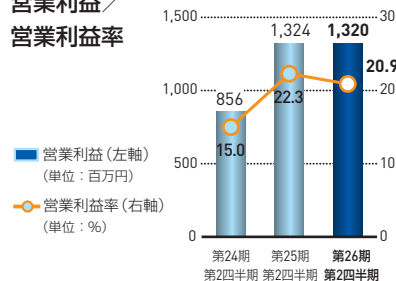
当社は来期より、革新的なインフラや新たな価値創造サービスをさらに加速させ、本格的に空と陸の交通気象をグローバルに展開する第四成長期に入ります。革新的なインフラのシンボルでもある「WNI衛星」の打ち上げも、2012年9月に決定しました。

今後とも株主サポーターの皆様のご支援、ご参加を引き続き賜りますようよろしくお願いいたします。

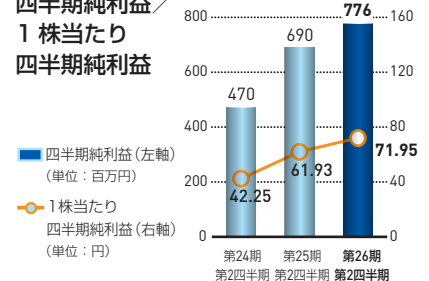
売上高の推移



営業利益／  
営業利益率



四半期純利益／  
1株当たり  
四半期純利益

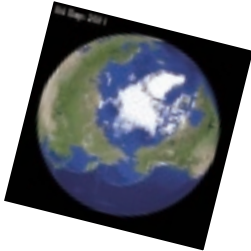
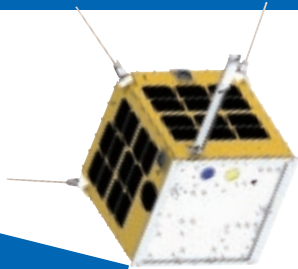


# 革新的プロジェクトの状況

価値創造のための“革新”進行中。

03 革新的プロジェクトの状況

WNI衛星  
Project



## WNI衛星、いよいよ2012年9月に打ち上げへ ～北極海航路支援サービス“Polar Routeing”の実現へ～

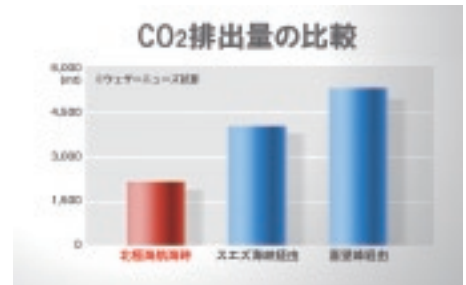
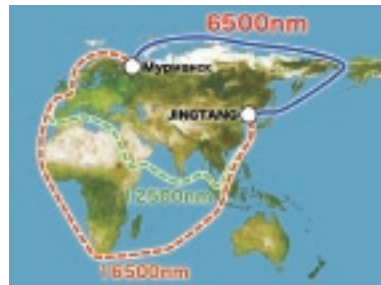
北極海の海氷をモニタリングする独自の超小型衛星「WNI衛星」。2012年9月28日にロシアのヤースヌイ宇宙基地から打ち上げることが決定しました。

当社では、このWNI衛星から受信した海氷データを、当社グローバルアイスセンターにて解析・予測し、北極海の安全で経済的な航行を支援する“Polar Routeing”サービスとして、海運会社へ提供します。

2011年の北極海の海氷は史上最速のスピードで減少し、ピーク時には史上2番目に小さい面積となりました。航路もロシア側ルート、カナダ側ルートともに開通し、すでに船舶が航行しています。

そのような中、日本の船舶が初の北極海航路に挑戦し、当社は初のPolar Routeingサービスをご提供しました。結果として航海日数・距離、燃料消費量、CO<sub>2</sub>排出量ともスエズ運河ルートとの比較では約半分、喜望峰ルートとの比較では約1/3と、大幅な短縮・削減に貢献しました。

世界の海運会社が注目する北極海航路。当社はWNI衛星の打ち上げにより現実的になるPolar Routeingサービスの本格的な開始に向け、同じ志を持つ海運会社、大学などの研究機関をはじめ、多くの皆様と共に取り組んでいきます。



日本の船舶が航行した北極海航路と、通常のスエズ運河ルートと喜望峰ルートとの航海距離、CO<sub>2</sub>排出量の比較。



## TSUNAMI Project



## TSUNAMIプロジェクト

### ～TSUNAMIレーダー、津波の早期検知・伝達を目指して～

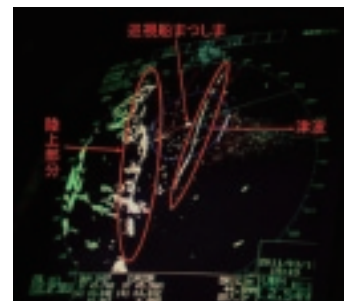
東日本大震災直後、当社では頻発する地震や津波などのリスクへの不安と懸念を軽減する取り組みとして、TSUNAMIプロジェクトを立ち上げました。被災レポートを集めた特設ページの開設、仙台空港へ離発着する航空機の安全性と就航率を高めるための「WITHレーダー」の設置など、復旧・復興を支援する取り組みを継続的に行っています。

TSUNAMIプロジェクトでは、当社でこれまで培ってきたレーダーのノウハウを活かし、世界で初めて津波を観測する「TSUNAMIレーダー」を開発しました。現在、東北沿岸9カ所に設置し、予報センター内にて24時間体制の実況監視を行っています。

今回の大震災では、通信網が途絶えたことにより情報が正確に伝わらなかったという課題がありました。次のステージではその教訓を活かし、震災発生時でも情報を確実に伝達できる通信網を利用し、リアルタイムに津波の接近を伝達するサービスを、被災地で実際に復興作業を行う企業と共に創造します。



TSUNAMIレーダー設置の様子



海上保安庁の巡視船まつしまのレーダーが捉えた津波

# 第26期 第2四半期業績報告

## 四半期連結貸借対照表 (単位：千円)

	前期末 (平成23年5月31日)	当第2四半期 連結会計期間末 (平成23年11月30日)
<b>【資産の部】</b>		
流動資産	3,890,350	4,052,688
固定資産	4,011,012	4,122,248
有形固定資産	2,621,275	2,593,614
無形固定資産	416,069	503,858
投資その他の資産	973,666	1,024,775
資産合計	7,901,362	8,174,936
<b>【負債の部】</b>		
流動負債	1,683,110	1,509,262
固定負債	276,766	176,543
負債合計	1,959,877	1,685,806
<b>【純資産の部】</b>		
株主資本	6,083,824	6,685,637
資本金	1,706,500	1,706,500
資本剰余金	967,990	962,518
利益剰余金	4,566,001	5,153,738
自己株式	△1,156,668	△1,137,120
その他の包括利益累計額	△142,339	△196,506
純資産合計	5,941,484	6,489,130
負債純資産合計	7,901,362	8,174,936

※記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

## 四半期連結損益計算書 (単位：千円)

	前第2四半期 連結累計期間 (平成22年6月1日から 平成22年11月30日まで)	当第2四半期 連結累計期間 (平成23年6月1日から 平成23年11月30日まで)
売上高	5,945,738	6,305,255
売上原価	2,919,292	3,332,031
売上総利益	3,026,446	2,973,224
販売費及び一般管理費	1,702,413	1,652,549
営業利益	1,324,032	1,320,674
営業外収益	2,049	5,624
営業外費用	49,568	125,928
経常利益	1,276,513	1,200,370
特別損失	99,146	24
税金等調整前四半期純利益	1,177,366	1,200,345
法人税、住民税及び事業税	470,040	412,491
法人税等調整額	16,432	11,486
少数株主損益調整前四半期純利益	690,893	776,367
四半期純利益	690,893	776,367

※記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

## 四半期連結包括利益計算書 (単位：千円)

	前第2四半期 連結累計期間 (平成22年6月1日から 平成22年11月30日まで)	当第2四半期 連結累計期間 (平成23年6月1日から 平成23年11月30日まで)
少数株主損益調整前四半期純利益	690,893	776,367
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△83,008	△54,166
その他の包括利益合計	△83,008	△54,166
四半期包括利益	607,885	722,200
<b>(内訳)</b>		
親会社株主に係る四半期包括利益	607,885	722,200
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

※記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

## 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 (単位：千円)

	前第2四半期 連結累計期間 (平成22年6月1日から 平成22年11月30日まで)	当第2四半期 連結累計期間 (平成23年6月1日から 平成23年11月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	988,985	608,053
税金等調整前四半期純利益	1,177,366	1,200,345
減価償却費	299,038	311,453
法人税等の支払額	△498,999	△468,971
その他	11,579	△434,774
投資活動によるキャッシュ・フロー	△569,542	△363,311
有形固定資産の取得による支出	△437,925	△225,105
その他	△131,617	△138,206
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,037,044	△299,184
短期借入金の純増減額	—	100,000
長期借入金の返済による支出	△287,600	△153,400
社債の償還による支出	△570,000	△70,000
配当金の支払額	△180,862	△188,675
自己株式の売却による収入	3,128	14,076
その他	△1,709	△1,184
現金及び現金同等物に係る換算差額	△45,989	△31,493
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少額)	△663,591	△85,934
現金及び現金同等物の期首残高	2,364,273	1,011,990
連結範囲の変更による増減額 (△は減少額)	△48,730	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,651,951	926,056

※記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

### POINT 1 四半期連結貸借対照表

総資産は、売上の増加に伴う売掛金の増加などにより、前期末比273百万円増の8,174百万円となりました。また負債は、長期借入金の返済や社債の償還、前期の法人税等の支払などにより、前期末比274百万円減の1,685百万円となりました。

純資産は、配当を行う一方で、四半期純利益の計上などにより、前期末比547百万円増の6,489百万円となりました。

これにより、自己資本比率は79.4%となりました。

### POINT 2 四半期連結損益計算書

価値創造サービスの拡大などにより重点事業が成長し、売上全体で6,305百万円(前年同期比6.0%増)となりました。

震災復旧・復興支援を目的とした費用の計上があったものの、革新的サービスを実現するための技術・インフラへの積極投資や今後のサービス拡大に備えた体制の整備・強化などが奏功し、営業利益は1,320百万円、経常利益1,200百万円(前年同期比6.0%減)となりました。研究開発の税額控除などに伴い、法人税等の金額が前年同期比で減少したことなどから、四半期純利益は776百万円となりました。

### POINT 3 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

営業活動によるキャッシュ・フローは、法人税等468百万円を支払う一方で、税金等調整前四半期純利益1,200百万円を計上したことなどにより、608百万円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産や無形固定資産の取得による支払などにより363百万円の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の返済や社債の償還などにより、299百万円の支出となりました。

## 会社データ

### 商号

株式会社 ウェザーニューズ

### 設立

1986年(昭和61年)6月

### 本社所在地

〒105-0014

東京都港区芝3-1-14日本生命赤羽橋ビル

### グローバルセンター所在地

〒261-0023

千葉県千葉市美浜区中瀬1-3

幕張テクノガーデン

### 電話番号

043(274)5536(IR代表)

### 資本金

17億6百万円

### 社員数

598名【このうち海外グループ94名】

## 役員

代表取締役社長	草開 千仁
代表取締役副社長	宮部 二郎
取締役副社長	戸村 孝
取締役	松尾 修吾
取締役	磯野 可一
取締役	志賀 康史
取締役	コン・キャリー
取締役	アントニオ・ブリッツォ
取締役	森田 清輝
取締役	石橋 知博
常勤監査役	湯川 智夫
監査役	立野 嘉之
監査役	水野 創

## 株式の状況 (2011年11月30日現在)

会社が発行する株式の総数：47,000,000株

発行済株式総数：11,844,000株

株主数：6,275名

### 大株主一覧

株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	議決権比率(%)
一般財団法人WNI気象文化創造センター	1,700	15.75
株式会社ダブルユー・エヌ・アイ・インスティテュート	1,700	15.75
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	666	6.17
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	451	4.18
株式会社三菱東京UFJ銀行	360	3.34
株式会社千葉銀行	360	3.34
石橋 忍子	354	3.28
ウェザーニューズ社員サポーター持株会	308	2.85
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(リテール信託口・ウェザーニューズ役員口)	273	2.53
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー 505019	245	2.27
日本生命保険相互会社	200	1.85
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー 505041	193	1.79
株式会社三井住友銀行	180	1.67

(注)

- 1.当社は自己株式を1,047,100株所有し、その発行済株式総数に対する割合は8.84%であります。
- 2.日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)および日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)の所有株式数は、すべて信託業務に係る株式であります。

## 株主の分布状況



- 金融機関・証券会社 31.10%
- その他の法人 33.48%
- 外国法人等(個人含む) 9.01%
- 個人・その他 26.41%

## 株式メモ

### 決算期

5月31日

### 剰余金の配当の基準日

期末配当 5月31日 中間配当 11月30日

### 定時株主総会

毎年8月

### 株主名簿管理人

東京都千代田区丸の内一丁目4番5号  
三菱UFJ信託銀行株式会社

### 同事務取扱場所

東京都千代田区丸の内一丁目4番5号  
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
(郵便物送付先・電話照会先)  
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号  
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
各種お問い合わせ ☎ 0120-232-711 (通話料無料)  
各種手続用紙のご請求 ☎ 0120-244-479 (通話料無料)

### 同取次所

三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店

### 上場証券取引所

東京証券取引所